

日六廿月七年三和昭 警報時報

編者 島田石城 印刷 島田石城 印刷所 島田石城印刷所 電話 二五〇 島田石城印刷所 電話 二五〇 島田石城印刷所 電話 二五〇

四倉町民大會 築港期成を決議

代議士、縣議等も臨席 昨夜四倉座に於て

四倉町有志より成る四倉築港期成會は十月月中旬まで滞在 成同盟會の町民大會は二十五日する由である、二十六日七時初 午後七時から四倉座に開き武藤を議長としたが、昨年の試験の結 果豊氏側會の挨拶あり座長に杉間半で東京につき五分は二 長新妻盛氏の挨拶あり座長に杉間半で東京につき五分は二 原町長を推し左の如き決議を三日位を過ぎて東京に着いた有 し、杉原町長は四倉築港促進運籌會で成績良好であったと。

助の経過を報告した、終つて來 賓として代議士木村清治氏、縣 會議員野崎滿藏、山崎吉平兩氏 等の激勵的演説、會員門馬倉次 郎外十數氏の演説等あり、會衆 七百余名、非常な盛會を極めた を控へて平警察署ではこの酷暑 決 議 文

漁港の成否は吾が四倉町の盛 衰に關す、此際吾等は協心一 致最善の努力を以て築港完成 を期す 七月二十五日 四倉町民大會

平、東京間 傳書鳩試験

八月から二ヶ月間 東京市外野町陸軍通信學校で は平、東京に於て昨年試みたと同様傳書鳩の試験を行ふ事となり同校教官軍用鳩調査委員大尉 柿本貫一氏來平準備中であるが八月月中旬から正式の試験を行ふ

要視察人

一千名に達せん 二十五日午後六時頃平町紺屋町 森川泰一郎方屋根から發火した 住家半焼して六時半鎮火した が平署で原因、損害取調中であ り前時から同村役場で審査會 を行つたが大山技師審査員とし て出張した。

意志の薄弱な 近頃の求職婦人

遂には墮落の淵に落つ 平紹介所で頭を絞る

財界不況から各種労働者が失業 職者である、然もこの女の求職 し町に流れ込んで來る數も多く者の大部分は何れも事務員を希 望して來たが、縣下四箇所の職望してゐる、そして又同様に事 業紹介所中比較的閑散であつた 務員希望者が言ひ合したやうに 平町紹介所も近頃は就職申込 最後には女中でも、店員でもい ので同所役員は求人申込みがな いと多事になつてゆく事實につ いて係員は頭をなやましてゐる 業について一定の希望がないと 業について一定の希望がないと 業について一定の希望がないと

紺屋町の 書火事

消防隊長負傷 二十五日午後六時頃平町紺屋町 森川泰一郎方屋根から發火した 住家半焼して六時半鎮火した が平署で原因、損害取調中であ り前時から同村役場で審査會 を行つたが大山技師審査員とし て出張した。

秋葉神社の 臨時祭典

平町紺屋町一の組、六の組では 明治三年以來無火災であつたが 之は町内で祭典を行つてゐる縣 社子銀倉神社境内にある秋葉神 社の神徳によるものと信じてゐ た、二十五日小火があつたの で組員は二十六日同神社に於て 日待會を開き、臨時祭典を行つ た。

桃品評會審査

大野 村農會主催桃品評會は二十六日 午前十時から同村役場で審査會 を行つたが大山技師審査員とし て出張した。

村を追はる 外山生

(その二) やがて手耕は馬耕に變つた、 鼻歌まじりに刈り貯められた 造られた堆肥を始め色々の牛 糞、数日の大きな金肥に 變つた、あまり骨を折らずに 百姓が出来る様になつた、生 産は段々と増していつた、村 人は文化の有難味を備へて 喜んだ、然り併しながら勝手 元は何年経つても豊にはなら なかった、それはかりではな い、其の多くは知らず、の問 に、身上を喰ひ込んでいつた、 其の頃何時となく、村に深れ 込むで、その日暮らしの日雇

軍人の列車から墜落

四分間停車...平驛の椿事

須賀海軍航空隊三等兵曹佐々 木五郎(二三)は二十五日歸隊す べく午前五時十五分平驛を野 行列車に乗り込んだが、乗てか 名濱東徹南百四十哩の海區で 列車を重ねてゐた平町新田町 開花亭の藝妓花丸外一名が驛ま 見送りに來たので兩名に見と 尾を釣獲したのみである、尚ほ れ發車してから乗降口に立 沖合に針路を向け二百四十哩内 につて帽子を片手にふりながら 外まで調査したが更に魚群を認 めず只僅に小名濱東二分一北二 百四十哩の海區において鮫付鮪 交りの小群に會つたのみである 進行中の事として大騒ぎとなり四 分間停車の上發車したが、兵曹 は擦傷を負ふたのみで生命に は別條がなかつた。

鯉漁況

警報丸の調査 警報丸は第十四回鯉漁場を調査旅行をなした。

郡山校生來郡

郡山 市第三小學校尋常六年生は二十 六日平町經由で小名濱町に遠足 旅行をなした。

縁と賭博を渡世にしてゐた熊 さんと云ふのがあつた何れを考へたか全くの出陣中の街道筋 に堀立式の假小屋を建て其處 に馬子や道行く人に季節々々の 果實や、うむどんや、酒なごを商つてゐた、村の人は皆 熊公が...と嘲笑した、併し やがて、村人は熊公の店で呑み且つ噴ふやうになつた、二 年足らずに熊公は妻の方へパ ラックの離れ座敷を建増して 白い女を二人ばかり抱え置く ようになつた、そして...そ の寄附はきまつて筆頭に書かれ 始めた、村人は熊公より幾 何かの融通を受けぬものは先 づない位になつた、村はやが

株式平銀行 第六十四期決算報告 貸借対照表 資産(借方) 現金預金勘定 三〇八、三二九、〇〇〇 有價証券勘定 七三、四八三、〇〇〇 割引手形勘定 一、七〇、八六〇 貸付金勘定 四、〇四、七〇三、〇〇〇 貸付有價証券 六、四〇〇、〇〇〇 他店借 三、五七六、八九〇 他店貸 三、五七六、八九〇 動産不動産勘定 一、二九四、六四〇 株主勘定 七、五〇、〇〇〇 合 計 六、三三〇、〇〇〇、〇〇〇 負債(貸方) 預金勘定 三、六二〇、〇四九、〇〇〇 借用金勘定 四、〇〇〇、〇〇〇 他店貸 七〇〇、〇〇〇 雜勘定 三、三三〇、〇〇〇 株主勘定 二、六八六、〇〇〇 合 計 六、三三〇、〇〇〇、〇〇〇 利益金勘定 金八萬五千五百拾圓也 當期利益金 之ヲ處分スルコト左ノ如シ 金貳萬圓也 諸積立金 金貳千圓也 重役賞與金 金貳萬八千貳百圓也 (年七分五厘強)配當金 金參萬四千五百拾圓也 後期繰越金 右之通りニ候也 昭和三年六月三十日 株式平銀行 專務取締役 山崎與三郎 取締役 木村清治 取締役 堀江正直 取締役 高岡唯一郎 常任監査役 新田目善次郎 監査役 吉田禮次郎

理髮組合で 優良徒弟表彰

昨日小名濱で
警察署管内理髮業組合總會は
昨二十五日午前十時から小名濱
小學校講堂において開會諸般の
協議打合せ、左記優良勤続徒弟
を表彰して、猪狩平署長その
他の祝辭あり正午閉會を兼ねた
海岸において徒弟慰安を兼ねた
同業者の懇親會を催した。

- ▲平町木村由三郎方坂本豊勝
- (一九)岡宮川幸吉方石井末吉
- (二一)岡平塚いく方手塚ふみ
- (二三)岡加藤卯之吉方加藤保
- (二四)岡石崎幸一方上原幸太
- 郎(二五)岡佐藤長平(二六)岡
- 高木貞雄方平子敏行(二七)岡
- 遠藤嘉雄(二八)湯本町渡邊
- はる方小泉勝翁(二九)岡平山
- くま方中野きん(三〇)警崎
- 村佐川松太郎方伊藤一郎(三
- 一)岡小松もつ方豊田やぶ(三
- 二)岡小濱町上遠野利喜松
- 方本田久雄(三三)岡渡邊忠太
- 方古川冬三(三四)岡新妻米吉
- 方新妻定吉(三五)岡江名町坂
- 本藏吉方坂本ちよ(三六)岡
- 平原よま方水竹武(三七)岡
- 岡村柳田仙吉方遠藤たま(三
- 八)赤井村岡谷甚藏方開
- 谷いちの(三九)岡片寄晴光方
- 山崎一(四〇)岡内郷村平興作
- 方平末次(四一)岡平町大谷末
- 治方井上榮(四二)岡

▲中村記者出發

いば
らき新聞平支局中村謙蔵氏は二
十六日午前九時一分發列車で植
田支局に赴任したが見送人多數
であつた。

▲入山警中對戰

入山
炭礦野球部對警中野球部の試合
は二十五日午後一時より警中グ
ラウンドにおいて行はれた。

謝近火御見舞

昨夕近火の際は早速御駆付け御盡力被下お蔭を以て大事に
至らず鎮火致候段厚く御禮申上候一々拜趨御禮可申上等の
處混雜中御尊名伺洩れも可有之乍略儀以紙上御挨拶申上候

平町紺屋町
白井 一郎
昭和三年七月廿六日

謝近火御見舞

昨夕近火の際は早速御駆付け御盡力被下お蔭を以て大事に
至らず鎮火致候段厚く御禮申上候一々拜趨御禮可申上等の
處混雜中御尊名伺洩れも可有之乍略儀以紙上御挨拶申上候

平町紺屋町
新妻眼科醫院
昭和三年七月廿六日

謝近火御見舞

昨夕近火の際は早速御駆付け御盡力被下お蔭を以て大事に
至らず鎮火致候段厚く御禮申上候一々拜趨御禮可申上等の
處混雜中御尊名伺洩れも可有之乍略儀以紙上御挨拶申上候

平町紺屋町
住吉屋本店
昭和三年七月廿六日

謝近火御見舞

昨夕近火の際は早速御駆付け御盡力被下お蔭を以て大事に
至らず鎮火致候段厚く御禮申上候一々拜趨御禮可申上等の
處混雜中御尊名伺洩れも可有之乍略儀以紙上御挨拶申上候

平町紺屋町
藤沼醫院
昭和三年七月廿六日

謝近火御見舞

昨夕近火の際は早速御駆付け御盡力被下お蔭を以て大事に
至らず鎮火致候段厚く御禮申上候一々拜趨御禮可申上等の
處混雜中御尊名伺洩れも可有之乍略儀以紙上御挨拶申上候

平町紺屋町
新妻信八
柳下元吉
圓谷健三郎
加納五郎
佐藤作平
吉田寅之輔

謝近火御見舞

昨夕近火の際は早速御駆付け御盡力被下お蔭を以て大事に
至らず鎮火致候段厚く御禮申上候一々拜趨御禮可申上等の
處混雜中御尊名伺洩れも可有之乍略儀以紙上御挨拶申上候

平町紺屋町
炭屋旅館
昭和三年七月廿六日

謝近火御見舞

昨夕近火の際は早速御駆付け御盡力被下お蔭を以て大事に
至らず鎮火致候段厚く御禮申上候一々拜趨御禮可申上等の
處混雜中御尊名伺洩れも可有之乍略儀以紙上御挨拶申上候

平町紺屋町
織田末松
織田萬次郎

謝近火御見舞

昨夕近火の際は早速御駆付け御盡力被下お蔭を以て大事に
至らず鎮火致候段厚く御禮申上候一々拜趨御禮可申上等の
處混雜中御尊名伺洩れも可有之乍略儀以紙上御挨拶申上候

平町紺屋町一同

謝近火御見舞

昨夕近火の際は早速御駆付け御盡力被下御
蔭を以て鎮火致候段難有奉萬謝候混雜の折
こて御尊名伺ひ漏れも可有之候に付乍略儀
以紙上御厚禮申述候 敬具

平町材木町
草野順平
昭和三年七月廿六日

謝近火御見舞

昨夕近火の際は早速御駆付け御盡力被下お蔭を以て大事に
至らず鎮火致候段厚く御禮申上候一々拜趨御禮可申上等の
處混雜中御尊名伺洩れも可有之乍略儀以紙上御挨拶申上候

平町材木町
ヤマト醬油株式會社
昭和三年七月廿六日

謝近火御見舞

昨夕近火の際は早速御駆付け御盡力被下お蔭を以て大事に
至らず鎮火致候段厚く御禮申上候一々拜趨御禮可申上等の
處混雜中御尊名伺洩れも可有之乍略儀以紙上御挨拶申上候

平町材木町
櫛田榮太郎
昭和三年七月廿六日

謝近火御見舞

昨夕近火の際は早速御駆付け御盡力被下お蔭を以て大事に
至らず鎮火致候段厚く御禮申上候一々拜趨御禮可申上等の
處混雜中御尊名伺洩れも可有之乍略儀以紙上御挨拶申上候

平町紺屋町
會川卯三郎
昭和三年七月廿六日

謝失火御見舞

昨夕失火の際は早速御駆付け消火に御盡力
被下御蔭を以て大事に至らず鎮火致候段洵
に難有奉深謝候一々拜趨御厚禮可申述の處
混雜中御尊名伺洩れも可有之乍略儀不取敢
以紙上御挨拶申上候 恐惶謹言

森川泰一郎